

本太中だより

第2号

令和7年4月30日

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

教室はまちがうところだ

社会に出た大人は、失敗から多くのことを学んでいる

校長 田中 一秀

進級、入学してから3週間が経過し、それぞれが新しい仲間とともに、力強く充実した学校生活を送っています。子どもたちの笑顔やあいさつ、教職員、保護者・地域の皆さまのウェルビーイングな姿に触れ、大変感動しております。

先日、本太小学校、北浦和小学校と3校合同で避難・集団下校・引渡し訓練を行いました。それぞれの小学校に弟や妹が在籍している生徒のうち、保護者の希望があった生徒については、小学校で小学生と一緒に保護者に引渡しを行いました。私は本太小学校に行き訓練の様子を見学していたのですが、小学校で妹や弟と合流した中学生の姿は、年長者として家族を支えている頼もしいものでした。今回の訓練では、様々な課題等もあり、本太小学校の校長先生と話し合いを行いました。保護者の方からは「すぐに子どもを迎えに行けない場合、兄弟姉妹が同じ場所で避難していると不安が軽減される」という内容のお言葉を多数いただきました。訓練の成果と課題を精査して、危機対応に活かしていきたいと思っております。

さて、「教室はまちがうところだ」という題名の絵本があります。この本は、静岡県で学校の先生をされていた 蒔田 晋治 さんが書かれたものです。私たちは他人にどう思われるかが気になり、自分の考えを言えないときがあります。また、「こんなことも知らないのか」と思われたくないために、聞きたいことを聞けないことがあります。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という言葉がありますが、現実には恥ずかしさが勝ってしまい、その場をやり過ごすことも多いと思っております。

私は今までに数多くの失敗をしてきましたし、今も失敗の連続です。「もうだめだ」と思った失敗も数多く、中には寝付けなかったような失敗も何回かありました。でも、どうにかなっています。むしろ、その経験が、その時の学びが、今では自分の財産になっているものも数多くあります。

私たち大人は、子どもに最高の結果、1番を求めがちだと思います。このことは、大人が子どもの幸せを願ってのことであり、私にはその気持ちが痛いほどわかりますし、

私も子どもに多くのことで1番を求めてきたように思います。でも、私の人生を振り返ると、今まで1番をとったことは一度もありません。結果に劣等感を感じたこともありました。結果が出ない自分、わかっていない自分を受け入れてはいても、それを他人に悟られるのが嫌で、まちがいを恐れて発言しない、恥ずかしさに負けて質問をしないこともありました。そんな私を見抜いたのでしょう。ある日、恩師から多くの人の前で「正しいかどうかより、まず自分の考えを言葉にきなさい」と言われました。私はその時、「これ以上恥ずかしいことはない」と思い、以後、それが結果としてまちがいであったとしても、とりあえず自分の考えを言葉にまとめてみるようにしています。大人は社会で失敗から多くのことを学んでいます。結局、長い人生、成功も失敗もありません。私たち大人が子どもの失敗に寛容であれば、子どもは安心して自分の可能性を追い続けることができるのではないのでしょうか。

教室はまちがうところだ

蒔田 晋治

教室はまちがうところだ

みんなどしどし手をあげて

まちがった意見を 言おうじゃないか

まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがったことを おそれちゃいけない

まちがったものを わらっちゃいけない

まちがった意見を まちがった答えを

ああじゃないか こうじゃないかと

みんなで出し合い 言い合う中で

ほんとうのものを 見つけていくのだ

そうしてみんなで 伸びていくのだ(抜粋)